

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

医療従事者と支援スタッフのためのサポートガイド

「視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」の作成と普及に関する研究

研究代表者 八巻 知香子 国立がん研究センター がん対策情報センター 室長
研究分担者 河村 宏 支援技術開発機構 研究部長
研究分担者 石川 准 静岡県立大学 国際関係学部 教授
研究協力者 原田 敦史 堺市立健康福祉プラザ 視覚・聴覚障害者センター 点字図書館長
研究協力者 山内 閑子 のこのこデザイン

研究要旨

視覚障害者が新型コロナウイルス感染症により入院または療養施設で受療することとなった場合、受け入れ施設のスタッフが配慮すべき点についてわかりやすく示す資料を作成した。資料は「初対面時」「移動」「検査説明」「CT検査」「病室」「同意書の署名」「宿泊施設」の場面を設定し、視覚障害のある人が必要とする配慮が網羅できるように構成した。

本資料の公開後、視覚障害者を支援する福祉職や眼科医、また視覚障害当事者やボランティア等から、書かれている内容がわかりやすく、活用しやすいという反響があり、これらの情報の普及が求められていると考えられた。

A. 研究目的

2020年初頭からの新型コロナウイルスの流行に際し、感染した場合には即座に視覚障害のある人も隔離された環境下で治療を受ける場合が生じることとなった。その状況下では、支援者や家族の同行なく視覚障害者単身で入院または療養施設に入り、慣れない場所で自ら身の回りのことを行う必要が生じる場合もある。

先行研究において、医療機関が様々な障害のある人に対して適切に対応しやすくすることを目的として、「医療従事者のための見えにくい方へのサポートガイド」を作成・公開していた（八巻，原田，2019）。そこで、「医療従事者のための見えにくい方へのサポートガイド」をもとに、視覚障害者が新型コロナウイルス感染症により入院または療養施設で受療することとなった場合、受け入れ施設のスタッフが配慮すべき点についてわかりやすく示すことを目的とする。

B. 研究方法

「医療従事者のための見えにくい方へのサポートガイド」で示した内容に、新型コロナウイルス感染症の入院で想定される流れに沿って場面を設定し、その場面ごとに配慮を必要とする事項を視覚障害者情報提供施設職員が案を示した。

作成された案を医師（リハビリテーション医、眼科医を含む）、看護師、社会福祉士、福祉専門職（視能訓練士、視覚障害者情報提供施設職員を含む）、視覚当事者研究者による検討を行い、修正を重ねた。

作成したパンフレット「医療従事者と支援スタッフのためのサポートガイド『視覚に障がいのある方

が新型コロナウイルスに感染し入院したら』」は、当研究班のウェブサイトならびに堺市立健康福祉プラザのホームページで公開するとともに、印刷した資料は全国視覚障害者情報提供施設協会の加盟施設（約100施設）に配布した。また、音声版、点字版を作成し、インターネット上の点字図書館である「サピエ」、当研究班のウェブサイト、堺市立健康福祉プラザのホームページでも公開した。

（倫理面への配慮）

研究者間の意見交換に基づく資料作成であり、倫理的配慮を必要とするような事項はない。

C. 研究結果

作成した資料は「初対面時」「移動」「検査説明」「CT検査」「病室」「同意書の署名」「宿泊施設」の場面が設定された。これらの場面は、入院からの流れに沿って場面をレイアウトし、具体的な声掛けの例をイラストとせりふ入りの吹き出しで表現する等の工夫を行い、実際の利用場面を想起しやすい構成とした。

個々の説明においては「誘導の方法」「段差での誘導」「病室の位置」「目印・表示の工夫」「診療時の配慮」「同意書の署名」「お風呂場での注意と確認」「お弁当の受け渡し」の項目を設定し、視覚障害のある人が必要とする配慮が網羅できるように構成した。

D. 考察

本資料の公開後、視覚障害者の支援施設職員や眼科医、また視覚障害当事者やボランティア等から、書

かかれている内容がわかりやすく、活用しやすい、メーリングリストで紹介した、関連施設に配布したいので追加配布をしたい等の反響を多数得た。日本盲導犬協会からは、5000部を協会費用によって印刷・配布したいとの申し出があり、同協会を通じても配布が行われた。

支援者が不在の状態、慣れない場所において、視覚障害のある患者が受療する状況は、患者にとっても不安が大きいこと、受け入れるスタッフにとっても戸惑いがあることが予想される。資料に対する好意的な反響は、視覚障害者を身近で支援する人たちにはそれらの情報提供の必要性が感じられていることの表れであると考えられる。また、この資料が実際の場面を想起しやすいよう、構造やイラスト、説明に工夫を行ったことが、福祉職員やボランティアなど身近な支援者からみても利用しやすい資料であると評価されたものと推察された。作成した資料がより広く活用されるよう、普及を促していくことが必要であると考えられる。

また、この資料は医療者等の利用を想定したものであるが、音声版、点字版を「サピエ」等に掲載したことにより、視覚障害者自身からも好意的な反響が多数あった。これは視覚障害当事者からも情報を得ておきたいという声に応えた対応であったが、視覚障害当事者には実際に自身が新型コロナウイルスに感染した際にどのような状況が予想されるのかという、予備知識を得る資料としても利用され、評価されたものと考えられた。

また、医療機関の受診はコロナ禍が収束して以降も日常的に必要となる。聴覚障害、知的障害など、他の障害のある人に求められる医療機関の対応についても同様の資料は有用であると考えられる。

E. 結論

視覚障害者が新型コロナウイルス感染症により入院または療養施設で受療することとなった場合、受け入れ施設のスタッフが配慮すべき点についてわかりやすく示す資料を作成した。作成した資料に対して、視覚障害のある人を支援する福祉職、眼科医等から好意的な反響があった。

(引用文献)

八巻知香子, 原田敦史. 「医療従事者のための見えにくい方へのサポートガイド」の作成とその評価. 医療の質・安全学会誌14 (1) ;35-38. 2019

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

軽症・無症状者の宿泊療養などで配慮すべきこと

入口の扉を起点に部屋の広さ、ベッド、洗面所の位置関係を説明してください。最後に必要に応じて入口から壁沿いに確認してもらえるとわかりやすいです。

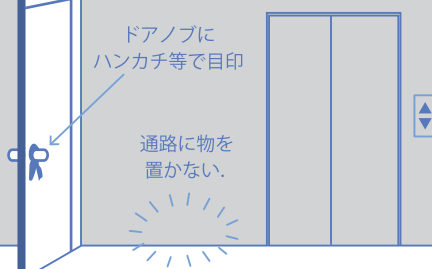
ベッドの横の扉がトイレとお風呂です



移動がしやすいエレベーター近くの部屋が適切です。

ドアノブにハンカチ等で目印

通路に物を置かない。



合理的配慮のための情報確認は、丁寧な言葉遣いで行い、守秘義務は徹底してください。

洗浄ボタンに凸シール

凸シールや点字シールでスイッチなどに目印

ゴムで目印



お弁当とヨーグルトお茶が入っています



お風呂場での注意と確認

つまずきや転倒等の危険が生じないよう整理整頓をしてください。石鹸の置き場所に注意してください。お風呂のお湯の設定温度を確認し、便器とトイレトーパー、水を流すボタンの位置、温水洗浄便座の操作方法等を丁寧に説明してください。

目印・表示の工夫

ドアノブにハンカチを巻いたり、ポットのスイッチなどに色や触覚でわかるシールや点字シールを貼ると、認識しやすくなります。シャンプーとリンスはどちらかにゴムを巻くか、メーカーが提供する点字シールを貼ると区別しやすくなります。

お弁当の受け渡し

手渡しの場合には中に入っているものを説明してください。箸やスプーンはひとまとめにビニールの袋に入れておくとわかりやすくなります。お弁当に限らず、手渡しができない場合はドア付近に置き、内線電話で内容を知らせてください。

医療従事者と支援スタッフのためのサポートガイド

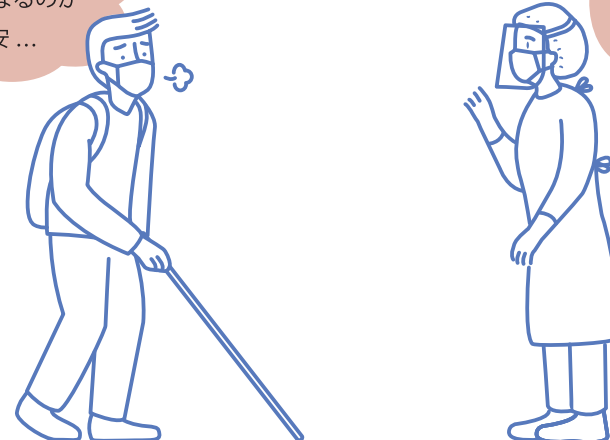
「視覚に障がいのある方が

* 新型コロナウイルスに感染し入院したら *

[COVID-19]

コロナにかかってしまった
これからどうなるのか
とても不安...

こんにちは！
私がお部屋へ
ご案内します



障がいの程度や症状は、ひとりひとり異なります。



健全な見え方



中心暗点



視野狭窄



まぶしさ(羞明)



全盲

作成・お問合せ先：令和2年度厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合事業

「障害のあるがん患者のニーズに基づいた情報普及と医療者向け研修プログラムの開発に関する研究」班

研究代表者 八巻知香子

国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供部 医療情報評価室

E-mail: medinfo-disability-sec@umin.ac.jp

視覚的な情報が制限されるため、情報を収集すること、空間を把握すること、目的地までの距離や経路を確認することが困難です。コミュニケーションを大切に、柔軟な対応を心掛けましょう。

病院でこんなサポートがあると

見えない・見えにくい方は入院時に安心できます！

まったく見えない人でも、慣れてくると単独で移動できる人もいます。最初に時間を取って、病室・トイレ・ナースステーション等の位置関係を説明してください。

「いつものようにされていますか」と聞くと、相手の方も答えやすいです。

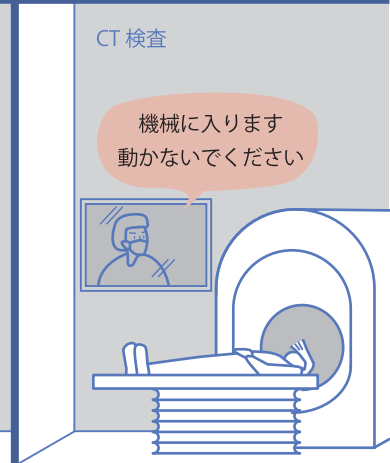
目で見える情報を音に変えて、聞こえる情報に変換することが説明の際のポイントです。



誘導 誘導の際は視覚障がい者の半歩前に立ち、肘の上や身長差によっては、肩や手首をつかんでもらいます。誘導する腕は白杖を持っていない側の腕です。狭いところでは、介助者の腕を背中側に回し、前後一列で歩きます。

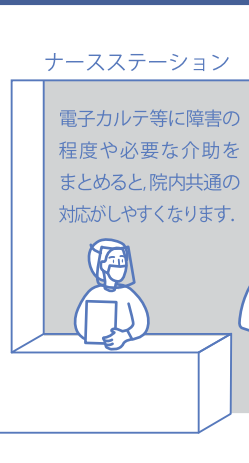


診察時のサポート どのような検査を行うのか、検査の流れや所要時間の目安等を説明してください。録音、代読等を提案すると安心されます。複数の資料を渡す際は、それぞれ何の資料かを伝えてください。資料の文字は大きめのゴシック体にするとうみやすくなります。



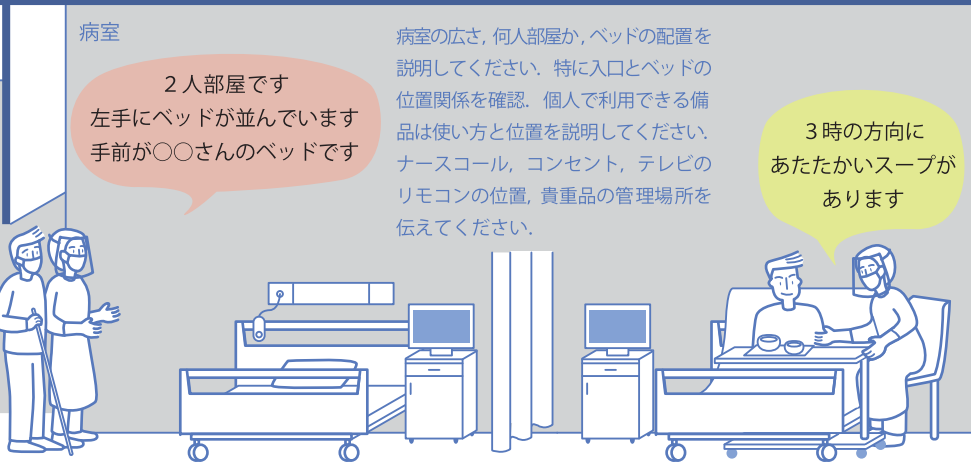
階段での誘導

手すりを使って一人で上り下りしたい人もいます。事前に手すりを利用するかをたずねましょう。一人で昇降したい人には手すりを手を誘導します。階段や段差では始まりと終わりで、一旦立ち止まって声を掛けてください。



病室の位置

移動がしやすいように、ナースステーションの近くや、トイレが室内にない場合はトイレの近くが望ましいです。ベッドは入口に近い方がわかりやすいです。



目印・表示の工夫

入口のドアノブにリボン等を巻くとわかりやすくなります。本人が認識しやすい色の紙等を病室の扉、トイレの入口に貼ることも有効です。案内表示は白黒反転等のコントラストの工夫が効果的です。

食べ物の位置は、時計の文字盤を例にして説明。



同意書の署名

同意書等の重要書類は、拡大文字や録音・点字・データでの提供が望まれます。難しい場合は医療相談室で読み上げるなど、患者さんにあった支援を行ってください。